



新学期開始で一番の楽しみは給食です。
月 500 円の教育全体支援に協力下さい。



2015 年 7 月 25 日発行

NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会

(英文名略称・HANDS)

本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11

TEL & FAX:045-500-9151

E-mail: hands-mindanao@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/hands/>

郵便振替口座 00210-5-72693

(加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会

教育を受けた青年たちに託す「自立」 — ボルルール村の試み —

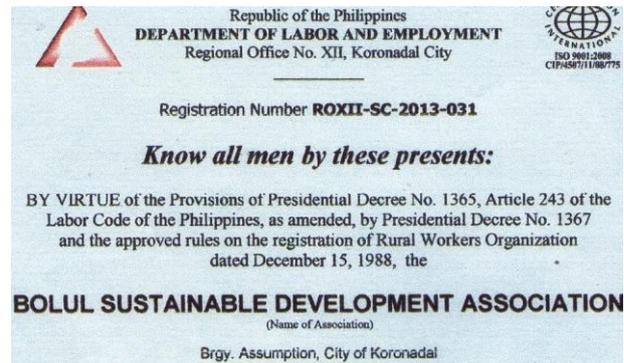
7月の初め、3年前の会報70号で、「鉱山会社の操業一時中止の影響」により失職した卒業生として紹介したMさんから、「海外就労、これが私に残された道です。3人の子どもと、高齢の母を養うための選択ですが、自分の心の平安のためでもあります」という内容のメールが届きました。

70号では、実家の村に戻ったと報告しましたが、まもなく、コ罗纳ダル市郊外にある夫の村ボルルールに転居し、73号の農村開発のページでお伝えのように、農業専攻のボニファシオなど元HANDS奨学生とともに、Bolul Sustainable Development Association (略称BOSDA)を設立しました。

ボルルールは50年以上前に、CMIP〈旧名称CMB〉が活動を始めた村で、CMBをパートナーとしたHANDS活動初期の奨学生には、ボルルール出身者が多く、他のビラーン民族の村より、カレッジや専門学校卒業生がたくさん出ています。しかし、公立校教師になった1名を除き、山腹斜面のコーン栽培と、運がよければスーパーの短期契約の仕事に就くぐらいで、専門教育を受けた特典が十分生かされていません。

今年、HANDSは発足20年目の活動に入りましたが、その設立時の名称は、「ビラーン族の医療を支える会」でした。そして、発足して半年後には、初等教育普及と人材育成からなる教育支援を加え、会の名称に「自立」を入れ、長くなるので「族」をとりました。

人材育成、カレッジ教育は経費がかかります。しかし、たとえ、村に2、3名でも、専門教育を受けた青年がいて、住民の収入向上、経済的自立のために働くならば、50世帯ほどからなるコミュニティ（伝統的集落単位、行政上のシチオ）は、一つ、また一つと、支援が不要となるという期待を込めての改称です。



BOSDAの管轄官庁DOLE（労働雇用省。写真は登録証明書）から、ビラーン民族が主導した住民組織は珍しい、頑張れと言われたようです。米等の日用品の共同購入、日本の企業による竹串乾燥機支援、その共同管理による竹串の売り上げ増加などすべり出しは順調でした。

しかし、2年目の小規模アグロフォレストリーでは、会計処理上の問題が起きて、担当のMさんと、他のメンバーとの間に、深い溝ができてしまいました。

奨学生に禁じられていた鉱山会社就職、失職、貧しい親族の期待等、Mさんには複雑な事情があったようで、組織運営指導をお願いしたメルチさん(元COWHED代表)の助言、励ましも実りませんでした。

みんなで豊かになる道をと、BOSDA設立を助言したけれど、Mさん自身の困窮問題解決に至らなかっただけでなく、組織内での孤立等、精神面でも余計な重荷を負わせてしまったようです。心の平安を取り戻して、無事子どもたちのもとに戻ってほしいと思います。

一方、農業専門家としてBOSDA設立にかかわったボニファシオからは、ゴム苗木やコーヒー苗の状況等、前年度のアグロフォレストリー事業のモニター結果などの報告が届きました。（関連記事 P5）

教育を受けた青年たちにより、みんなが少しずつ豊かになるためのボルルールでの試行錯誤を、今しばらく見守りたいと思います。（山崎）